

平成26年度東明館高等学校卒業証書授与式 学校長式辞

長く、厳しかった今年の冬は過ぎ、穏やかな早春の季節を迎えました。まじかに基山を望むここ宮浦の地にも、陽の光が輝きを増し、春の訪れを告げています。いよいよ、旅立ちの季節を迎えました。

今日のこの良き日に、東明館高等学校第25回卒業式を挙行致しましたところ、地域や諸団体の代表の皆様、さらには本校の同窓会、後援会など関係の方々、多数の御来賓のご臨席を賜り、盛大に挙行できますことは、卒業生はもとより、学校関係者にとりまして、この上もない喜びであり、高いところからではありますが、謹んで御礼申し上げます。ご参列いただきました、多数の卒業生の保護者の皆様におかれましては、お子様の、健やかな成長を願い続けた日々を思い、また、ここに、たくましく成長された、晴れの姿を目にされ、お喜びも、ひとしおかと存じます。心よりお祝い申し上げます。

さて、卒業生108名の皆さん、卒業おめでとうございます。あなた方は東明館高等学校25期生として、勉学にいそしむと共に課外活動やあらゆる学校行事において、互いに友情を育むとともに、青春のエネルギーを力いっぱい燃焼させて、輝かしい高校生活を創り上げてきました。その日頃のたゆまぬ努力と精進に対し、心から賛辞を送ります。

25期生の皆さんは、この学校でかけがえのない友人、先輩、地域の方、教職員と出会い、学習を通して、階段を着実に上りながら逞しく成長し、高い学校文化を育んできました。

皆さんは、「英数強化クラス」、「特進クラス」、その後、名称変更が行われ「ゼネラルリーダークラス」、「メディカルリーダークラス」の第一期生、フロントランナーとして、ちょうど雪深い冬山に分け入ってラッセルするごとく、自らの進む道を切り拓き、一步、一步、目標に向かって、登っていきました。25期生の皆さんは、学習面をはじめとして、体育祭や部活動、クラスマッチ等においてもエネルギーに、積極的にリーダーシップを発揮して、素晴らしい成果を上げてきました。皆さんのリーダーシップの発揮によって、東明館高等学校では、学年・クラスを超えた交流活動が、活発に行われ、生徒間でのお互いの理解と信頼、尊敬が、育まれてきました。先輩や友人との切磋琢磨を通して、自立をめざすという、自主活動の大切さを、様々な活動を通して、多くの後輩たちは学んだと思います。皆さんの熱き思いは、着実に在校生へと、受け継がれようとしています。

私は、改めて、25期生の努力とがんばりに敬意を表します。そして、卒業していくあなたたちに対して、私たち教職員は、これからも、豊かな教育実践とたゆまぬ改革努力によって、本校教育を一層発展させるとともに、教職員が連携して適性かつ的確にそれぞれの教育活動を、力いっぱい展開していくことを、改めて表明いたします。

さて、私たちの社会は、あらゆるものが、変化の時を迎えています。これまで大切だと思ってきたものが大切でなくなり、これまで見過ごされてきたものが、改めて大切になってくる、そんな状況も垣間見られます。私たちは、今、新たな制度や秩序の構築に向けた、生みの苦しみの渦中にいるのかもしれませんが。今ほど、人類の叡智を必要としている時代は、ないかもしれません。皆さんは、このような時代を、生きていきます。皆さんが進んでいくこれからの時代は、「不確かさ」や「不透明さ」とじっくりと向き合い、それらに耐える力、そして乗り越えていく力こそが、求められているのかもしれませんが。言い換えれば、私たちは、より自覚的に見る、より自覚的に考えるということをもっと意識しなければならぬのではないのでしょうか。

日々変化する情勢のもとでは、社会や組織は変化すること無くして、存続ができません。これからは自ら進んで変化に対応できる力を身につけることが必要になります。経済学者・未来学者のピーター・ドラッカーは、「変化はコントロールできない。できるのは、変化の先頭に立つことだけである。」と示唆に富んだ指摘をしています。

これらの課題に立ち向かい、21世紀の世界を支えていけるのは、あなたたち若者です。

卒業生の皆さん、この先長い人生には、社会情勢の激変を経験したり、予想も出来ない不測の事態が発生したりすることもあります。物事を深く洞察できる青年として、常に自分の心を大きく開き、他人への気配りを忘れずに、厳しさと他者への思いやりを持ち続けてください。弱い立場にいる人へは、その息づかいをも感じ取る仕方で理解し、考える人であって欲しいと願っています。そして自らの体と心の健康に気を配りながら、「自分らしさ」を大切に、生きていってください。

これから先も、「学ぶ」ということは、誠実を胸に刻み込んでいくことです。「働く」ということは、持てる能力を発揮し、自らの自己実現を通して社会に貢献していくことです。「人間が人間らしく生きる」ということは、社会的弱者や病める人たちにたえず思いをはせ、悪や不正に対して敢然と課題解決に向けて立ち向かうことだと、先達は私たちに教えてくれています。

皆さんは、高校生活の様々な活動の中で友情を暖め、知性、先見性、主体性、責任感などを培ってきました。皆さんは、それぞれがもてる個性を輝かせ、4月から、新しいスタートラインに立ち、新しい人間関係の中で、新しい目標に向かって、自らの信ずる道を歩もうとしています。

明朗・聡明・気品ある青年として常に自分の心を大きく開き、自分を大切にするとともに、他人への気配りを忘れずに、厳しさと他者への思いやりをもって、自らの未来を切り拓いていってください。

春3月は、別れと旅立ちの季節。春4月は出会いと始まりの季節です。桜が咲く頃には、このキャンパスは、みずみずしいでたちの新入生であふれます。どうか卒業しても、ぜひ、母校への思いを持ち続けるとともに、母校を訪れて、後輩たちを励ましてください。皆さんが過ごしたキャンパスに、昨日までのあ

あなたの姿を、活躍している後輩の中に必ずや、ひとりは見つけるはずです。

その際、後輩の放つエネルギー、躍動、希望、夢を感じとる時、皆さんの胸にも新たな意欲と希望が生まれるでありましょう。母校は、その時々皆さんの思いを受け入れて、みなさんの保護者のごとく、やさしく迎えるでありましょう。卒業生の皆さん、時には、同窓生や後輩、母校、教師というフィルターを通して、高校時代の自分を見つめ直して下さい。在校生、教職員は、卒業生のみなさんの訪問を心待ちにしています。

結びになりましたが、今日までお子様を熱心に育て、はぐくんでこられた保護者の皆様一言、お祝いとお礼を申し上げます。本日、ここにお子様があめでたく卒業されましたことを心からお喜び申し上げます。在学中は何かとご苦労の多かったことと拝察いたします。それだけに、今日という日を待ち望んでおられた皆様方のお喜びも、ひとしおのことと存じます。お子様をお預かりして以来、私どもは最善の努力をして教育にあたって参りましたが、力及ばなかった点もあったかと思えます。これからはお子様方が新しい進路に応じて、自力で前途を切り開き、奮闘してくれるものと信じております。なお、本校の教育活動推進のために、暖かいご理解とご協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。これからもお子様の母校として、本校に暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご来賓の皆様にはご多忙の中、かくも多数ご臨席を賜り、卒業生を激励していただきましたことに対し、感謝申し上げます。今後とも本校の教育活動に深いご理解をいただき、本校のさらなる発展のために、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。結びに、東明館高等学校第25回卒業式を準備し、支えてくださった大勢の方々に、心から感謝申し上げます。式辞といたします。

平成27年3月1日

東明館高等学校長 小島敏夫